



Withコロナ時代での新しい活動様式

1. 案内グループ

- ①活動時の共通事項・
 - ★常時マスク着用
 - ★入・退館時の手指消毒、手洗い励行
 - ★できるだけ距離(1m以上)を取る
- ②活動時の個別事項・
 - ★フェイスシールド使用(紙芝居・ぬり絵・昔あそびなど)
 - ★来館者用椅子は折りたたみ椅子(木製長椅子使用禁止)
 - ★来館者に接近せず距離を取る
 - ★こまめに周辺を消毒
 - ★構造物を含め接触はできるだけ避ける



2. 科学グループ

新型コロナウイルス自粛後、科学館が開館し、ボランティア活動も再開されました。科学ボランティアのコーナーでは来館者との間にビニールカーテンが設置され、テーブルや手は消毒液で感染対策をしています。

工作も出来るだけ、手数が少なく時間もかからず、楽しいものをと、7・8月は、ぶっとびロケット、9月からはぶんぶんゴマ、11月12月はくるりんパズルです。

来館者は少ないですが、親子で来館される方が多く、親も楽しく工作しています。以前は子どもに工作をさせて親はスマホをとと言う方も見られたのですが、ぶんぶんゴマは親もやったことのある人が多く、子どもより先に作って、回すことができ自慢そうな様子でした。

ミーティングや研修会で新型コロナウイルスの事を学び、対応策を考えながらボランティア活動をしています。私達もマスクをして、新しい生活様式に対応する活動をしていることを来館者にも理解していただいております。コロナウイルスが収束して、いつものように活動ができる日が早くきてほしいです。



3. 天文グループ

【駅前観望会について】

- ☆スタッフは全員マスクを着用する。
- ☆望遠鏡周辺に除菌シートを設置する。
- ☆アルコール消毒液を携帯し、観望会参加者に消毒をお願いする。
- ☆望遠鏡を待っている人に、透明な観察シートを配布する。このシートを接眼レンズにかざして、直接触れるのを防ぐ。
- ☆望遠鏡を覗く直前にも消毒をお願いする。
- ☆望遠鏡の操作は基本的に職員が行う。
- ☆望遠鏡は十分な間隔をあけて設置する。
- ☆待機列も十分に間隔をあけて並ばせる。
- ☆コロナ対策の協力を拡声器で呼びかける。
- ☆使用済みのシートはゴミ袋を用意して回収する。

【星の宅配便等について】

ある程度人数がわかっている星の宅配便等の活動は、透明な観察シートの代わりに紙コップで個人用の接眼部を用意する。最初のガイダンス時に、コロナ対策と紙コップの飾りつけを行う。その他、観察時の対応は上記と同じ。

◎ 活 動 報 告

橘小3年生「郡山市街地学習会」in ビッグアイ

6月17日(水)10時から橘小学校3年生60名を対象に展望ロビーでの郡山市街の学習会が有り、久野、原そして私、菅野が対応しました。

今年は、コロナ禍のため、手作りのフェイスシールドとマスクのダブル使用による対策と、できるだけ密にならないよう注意しながらの説明となりました。

菅野は北側担当者から引き継いで東と南から見える建物探しを担当しました。まず、東側の郡山市立美術館のある場所を説明すると、米粒程にしか見えないビックパレットを素早く見つける子供たち。説明が追い付かないうちに見える建物を次から次へと探し出し、熱心にメモを取っていました。上りと下りの新幹線が交差する際には歓声が沸きました。

次に原が担当する南西方面から見える建物探しをしました



ちょうどこの方面には、橘小学校が見えることを話すと身を乗りだし盛り上がる子どもたち、「どこ?」「ん…?」そこで、まず『郡山消防署』の鉄塔を見つけそして『けんしん文化センター』そして『ベニマル』を見つけました、ベニマルのスロープ左側に目をやると「あ!あった!!」の弾む声!みんな地上から見た自分たちの小学校に大喜びでした。



普段、見る景色とは違ってここ22階からの眺めは、子どもたちにとって楽しい発見になったことと思います。来年も新3年生をお待ちしています。

(案内グループ 菅野・原・久野)

令和2年の天文活動

先の見えない中で始まった今年度ですが、制約のある中で何ができるか試行錯誤するいい機会だったと思っています。接触感染を防ぐ手段として、天体観察を間接的に行う電子観望なども思いのほか参加者に楽しんでもらえました。また、個人的にも、国内での最大食をねらった石垣島での日食観測、晴れ間を求めて出かけた青森県津軽半島龍飛崎でのネオワイズ彗星など制約のある中でも楽しめました。

(天文グループ 齋藤 正一)



◎ 新 会 員 紹 介

初めまして。

就寝前に夜空を見上げるのが長い間の習慣です。星座と言えば北斗七星等の有名所の知識しか無いのですが、夜毎様子を変える空を見ていると気持ちがほぐれます。

ボランティアへの応募は、たまたま広告を目にしたの思い付きでした。コロナの影響での研修の延期、活動参加が始まれば天候に祟られ…。で、未だに何のお手伝いも出来ていませんが、それでも参加させていただいてからは夜空への思い入れが強くなりました。何千万キロも離れている星々の存在が肉眼で確認出来るなんて何とも神秘的です。今後は、“星のソムリエ®”にも挑戦してみたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

(天文グループ 齋田淑子)

9月から天文グループの一員になりました。応募のきっかけはビッグアイ 7F の「あさかの学園大学」でプラネタリウムを見学学習した事でした。プラネタリウムで星空を見上げた時、子供の頃に感じた真っ暗な宇宙を漂う様な感覚にワクワクして来ました。

早速、9月27日喜久田公民館の「星の宅配便」に参加しました。当日は親子合わせて50人ほどが3ヶ所に分かれて満月近くの月と木星・土星と火星、オリオンなどを観望、一緒に「悠久の時」を過ごすことが出来ました。これからもたくさんの人に身近な宇宙を感じてもらえるお手伝いできればと思います。

(天文グループ 佐藤重章)